

天文学の専門家らによる講演会が2日午後2時10分から、三田市まちづくり協働センター（駅前町）の多目的ホールで開かれる。大宇宙のロマンに浸ってもらおうと、関西学院大学が七夕に合わせて実施する。

2018年から続くが、20年は新型コロナウイルス禍で中止。去年はオンラインで



南極に設置を目指している電波望遠鏡の完成予想図＝関西学院大提供

# 宇宙ロマン浸ろう

あす三田、関学大講演

開いたため、対面での開催は3年ぶりだ。

理学部物理・宇宙学科の瀬田益道教授が「南極から星間物質を探る」とし、星ができるメカニズムを解説する。筑波大などと共同で、南極内陸部の高地にある基地「新ドームふじ」に口径12mの電波望遠鏡をつくる計画についても語り、調査時の映像も紹介するという。

京都大理学部の太田耕司教授も、「超巨大ブラックホールと銀河の不思議な関係」をテーマに話す。

参加無料で、内容は中学生以上向け。担当する関学大の中井直正教授は「宇宙に興味がある人は多いはず。気軽に参加して」。電波望遠鏡をつくる資金も募っており、「三田発の宇宙研究に協力を」と求めている。

問い合わせは、中井教授（079・565・8314）へ。